

# 全肢連情報

## ZENSHIREN BULLETIN

□編集・発行

一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会

〒170-0013

東京都豊島区東池袋1丁目36番7号

アルテール池袋709号

□Publisher ZENSHIREN

TEL: 03-3971-3666

FAX: 03-3971-6079

E-mail: [web-info@zenshiren.or.jp](mailto:web-info@zenshiren.or.jp)皆様からのニュースのご提供を  
心からお待ちしております。全肢連情報はホームページ「響(ひびき)」でもご覧になれます。 URL: <http://www.zenshiren.or.jp>SNSで障害児・者、肢体不自由児・者の情報交換を **Facebook** <https://www.facebook.com/ZENSHIREN>

## 第54回全国大会 東京都大田区で開催される

令和3年度全国肢体不自由児者父母の会連合会国大会(第58回関東甲信越肢体不自由児者父母の会連合会 東京大会)が、令和3年9月18日(土)に大田区産業プラザPiOにて開催された。

大会当日は『住み慣れた地域で、共生社会の実現!~東京オリンピック・パラリンピックは私たちの暮らしに何を遺したか~』をテーマに、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、ハイブリッド形式で開催。会場とオンラインを合わせ500名を超える参加者となった。

大会は9時より受付開始され、9時30より開会式が始まり、物故者への黙祷が捧げられた。全肢連 石橋吉章副会長の開会宣言で始まり、全肢連 清水誠一会長による主催者挨拶が行われた。引き続き、厚生労働大臣、文部科学大臣、東京都知事、大田区長からの祝辞が述べられた。

休憩をはさみ11時より記念講演Ⅰでは全肢連顧問 衆議院議員 野田聖子氏を迎え、「障害のあるお子さまの育成、医療的ケア児支援法について」自身のお子さんの事例を取り上げながらの熱い講演が行われた。

12時45分からは公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 山口祥代氏と吉田茜氏による基調講演「オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の取組」ではオリパラ全体を通じてのパラ関連の取り組みをコロナ対策中心に講演が行われた。

13時20分から「東京オリンピック・パラリンピックから私たちは何を引き継ぐか」をテーマにシンポジウムが行われた。コーディネーターにDPI日本会議副議長 尾上浩二氏、シンポジストには東京都肢体不自由特別支援学校長会会長 高橋馨氏、中央大学研究開発機構准教授 稲垣具志氏、元パラリンピック代表 横沢たかのり氏を迎え、東京オリンピック・パラリンピック開催に向け取り組まれてきたことについて、またそれによってもたらされたことについて、それぞれのシンポジストから話がされた。

15時20分より行われた記念講演Ⅱでは厚生労働事務次官 樽見英樹氏を迎え「これからのワクチン時代にどうのぞむか!~ワクチン接種の現状と今後の障害者対策~」をテーマに、現在のワクチン接種状況と新型コロナウイルス感染症に用いられている治療薬、医療体制等について話がされた。

16時30分より閉会式が行われ大会決議文が朗読され、異議なく採択された。

引き続き、次期全国大会開催の愛知県肢連 会長荻野義昭氏より挨拶が述べられ、今大会は全肢連 植松潤治副会長による大会終了宣言により幕を閉じた。

## 大会決議文

全肢連は身体に障害がある子ども達の療育・教育・在宅での支援など障害児福祉の在り方を求め、初代会長高木憲次博士を中心に昭和36年11月に創立以来60年を迎え今日に至りました。

本大会では全肢連顧問の衆議院議員「野田聖子先生」の記念講演で、医療的ケアや重い障害があっても、私たち自身の愛情と行動が明日に向かう希望に満ちた障害福祉の「明るい道標」を示していただくことができました。

しかし、一昨年12月中国武漢から世界中に蔓延した新型コロナウイルス感染症は、私たち、障害児者・保護者の活動にも大きな制約が課せられ「障害のある人もない人も共に暮らす共生社会の構築」に影響を及ぼし完全終息の見通しが立たない現状にあって、一人ひとりがコロナ感染予防対策に取り組むことの大切さと、新しい生活様式の定着で国民待望の「東京2020オリンピック・パラリンピック大会」を7月に開催することができました。

第2回パラリンピックが東京で開催されてから50年以上が経ち再び東京でオリンピック・パラリンピックが開催を契機に社会環境はハード面のバリアフリーが整備され心のバリアフリーの推進に資するよう様々な取り組みがありました。

障害者権利条約の批准に伴い障害児者にかかわる法律が整備されましたが、社会での理解は十分とはいえ地域による格差も依然として存在しています。

どのような環境にあっても障害のある子どもたちが学び、スポーツや芸術に親しみ、地域で安心して暮らしていくために第54回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会、第58回関東甲信越肢体不自由児者父母の会連合会東京大会の名において次の事項を決議します。

- 一、障害児者及び保護者・支援者の新型コロナウイルス感染症対策を進めること
- 一、施設や交通のバリアフリー化を一層進めること
- 一、どこにいても、適切な療育と医療が受けられること
- 一、医療的ケアや重い障害があっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための必要な支援を充実させること
- 一、障害や障害児者への偏見がなくなるよう、なお一層の啓発に努めること

令和3年9月18日

第54回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会  
第58回関東甲信越肢体不自由児者父母の会連合会東京大会

## 第5回 特急車両におけるバリアフリー対策に関する意見交換会 ～国土交通省

国土交通省は 9 月 22 日に、公共交通機関のバリアフリー基準等に関する検討会が開催され、検討状況が公表された。

「真の共生社会の実現」のためには、車椅子使用者が今まで以上に様々な場所へ、快適な旅を楽しめる環境整備が重要であることから、特急車両のバリアフリー対策についても関係者で構成する意見交換会を設置し、検討を行っている。

### 【障害者団体からの主な意見】

- 新幹線の基準と同様の考え方（座席定員に応じた車椅子スペース数等）にすべき。
- 車椅子使用者がグループで全国各地へ旅行するというニーズや、（新幹線に比べて）運行本数が少ないことから、車椅子スペースを最低限 3 ヶ所は確保すべき。
- 耐用年数が長い（30～40 年程度）ことを踏まえて、より未来志向で検討すべき。
- この機会に、車椅子利用者にとって使いやすいコンセント位置やテーブルの仕様なども検討して欲しい。

### 【鉄道事業者からの主な意見】

- 短編成の特急列車が走行する線区は地方閑散線区であり、繁忙期における増結運行、運行途中での分割・併合などを行って運行しているので、様々な運行形態に応じた検討が必要ではないか。
- 短編成の列車については、運転台やトイレ、洗面台等サービス設備の占める割合が高く、座席の数が相対的に少ないことも配慮すべきではないか。
- 新幹線に比べて車両幅等に物理的制約があり、座席のレイアウトには配慮が必要ではないか。
- 当該基準が適用される特急車両の定義・対象範囲について明確にする必要があるのではないか。

詳しくは、国土交通省ホームページ参照

<https://www.mlit.go.jp/tetudo/content/001425165.pdf>

## 障害者雇用優良事業所等の厚生労働大臣表彰 ～厚生労働省

厚生労働省は、令和 3 年度「障害者雇用優良事業所等の厚生労働大臣表彰」受賞者を決定し、「障害者雇用支援月間」にあわせて、9 月 14 日に表彰式を開催した。この表彰は、障害者の職業的自立の意欲を喚起するとともに、障害者の雇用に関する国民、とりわけ事業主の関心と理解を一層深めるために毎年行っている。

また、「障害者雇用支援月間」の啓発活動の一環として、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が主催する、「障害者雇用支援月間ポスター原画コンテスト」と「障害者雇用職場改善好事例」の応募作品等のうち、特に優秀なものに対して、「厚生労働大臣賞」を毎年授与しており、受賞者も決定した。

詳細は、厚生労働省ホームページ参照

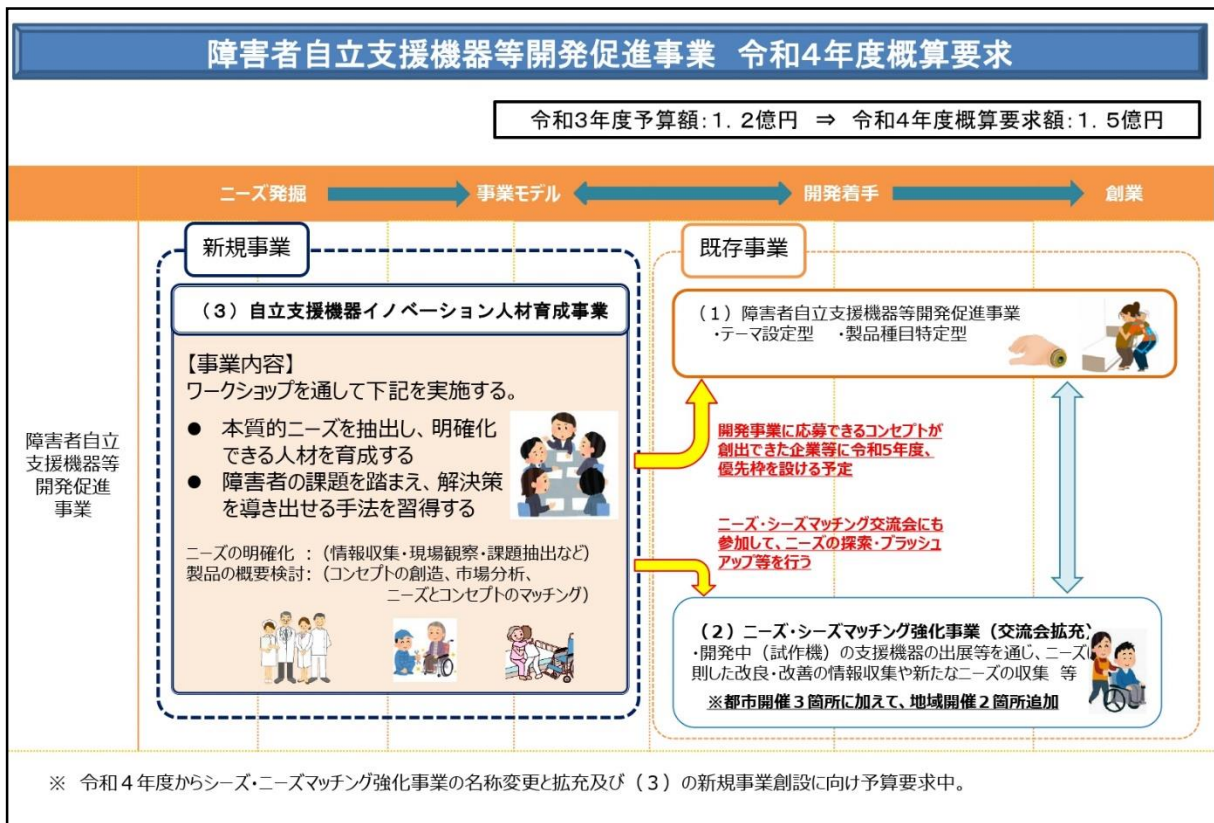
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_20717.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_20717.html)

# 障害者にアクセシブルな ICT 機器等の普及に向けての公表 ～総務省及び厚生労働省

総務省及び厚生労働省は、障害の有無等にかかわらず、誰もがデジタル活用の利便性を享受し、多様な価値観やライフスタイルを持って豊かな人生を送ることができる包摂的な社会（デジタル活用共生社会）の実現に向け、情報アクセシビリティ確保の観点から、障害者にアクセシブルな ICT 機器等の開発普及に関する施策の効果的な推進を図るため有識者から助言を得ることを目的として、新谷総務副大臣と山本厚生労働副大臣の主宰による「障害者にやさしい ICT 機器等の普及に関する 勉強会」を本年 8 月より開催してきた。

勉強会でのご意見を整理し、「障害者にアクセシブルな ICT 機器等の普及に向けて（主な意見の整理）」として公表した。

総務省及び厚生労働省は、本勉強会の有識者のご意見を踏まえ、関係省庁と連携して、障害者にアクセシブルな ICT 機器等の一層の開発普及と社会実装の加速化に向けて、具体的な施策の推進に取り組んでいく。



障害者にやさしい ICT 機器等の普及に関する勉強会（第 2 回）資料抜粋

詳しくは、総務省ホームページ参照

[https://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/O1ryutsu02\\_02000324.html](https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/O1ryutsu02_02000324.html)

## 誰もが楽しめる観光地に 障害者の旅行企画に反映 ～富山県

視覚障害者や車椅子利用者のための旅行プラン「富山城址公園ツアー」の実施に向け、富山国際大現代社会学部の一井崇講師と学生が17日、公園内にある富山市郷土博物館のバリアフリー化の状況を調べた。一井さんは「誰もが安心して楽しめる観光地を増やすため、調査結果を有効に生かしたい」と語った。

障害者や高齢者が安心して旅行を楽しむ「ユニバーサルツーリズム」を考える機会にしようと、ツアーの開催を企画。今年3月以降、プラン作成に当たり、富山城址公園東側にある千歳御門の段差などを調べてきた。

この日は一井さんと4年生の石坂渚さん(22)が調査に参加し、市郷土博物館の浦畑奈津子学芸員が案内。手すりの高さや出入り口の幅、スタッフが筆談に対応しているかなど約30項目を確かめた。

調査結果は大学の研究に役立て、他の公共施設に発信することも検討していくという。石坂さんは「古くからある建物は整備できる部分に限界があるが、職員や学芸員の工夫で利用しやすさが変わることを学んだ」と話した。

ツアーは、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら2024年ごろの実施を目指す。

## 車いすユーザー用の着物を展示・貸し出し ～滋賀県

障害者支援団体「マルチスイッチ」の木村寛子さんが9月26日、「ギャラリー蔵美(くらび)」(長浜市余呉町)で車いすユーザー用の着物の展示と貸し出しを始めた。

自宅の蔵を改装して作ったという同ギャラリーは9月1日にオープン。春に立ち上げたクラウドファンディングで資金を調達して完成させた車いすユーザー用の着物の展示・貸し出しを行っている。着物は着付師に頼まなくても誰でも簡単に着付けをすることができ、上下が分かれているので、座ったまま着用できる。特徴はお尻部分がくり抜かれている点。これにより、座っている時に生地が引っ張られるのを避けられ、トイレの心配も解消されるという。通常後ろに付ける帯は車いすでは不自由なため前に付けるタイプに変えている。着物は振袖6着、訪問着2着、色無地2着の計10着をそろえる。

同ギャラリーについて、木村さんは「クラウドファンディングに協力してもらい、みんなで作った着物なので、自宅で保管しておくより、誰にでも好きな時に見てもらえるようにと思いこの場を作った。長浜市街地には障害をもつ人向けの施設やサービスがいくつかあるが、余呉にはない。このギャラリーも『長浜市街地で作った方がいいのでは?』という声があったが、私のように余呉周辺にも障害をもつ人が多く暮らしているので、その人たちのためにこの場所でやることに決めた。コロナが収まれば、映画鑑賞会なども開きたい」と話す。

同ギャラリーは着物以外にも木村さんがデザインを手掛け「湖北みみの里」と協力して作った障害をもつ人のための服「スワリオン」の販売もしているほか、マルチスイッチの事務所としても活用している。

「今までは出会う人から「大変ね」「気の毒だね」と声を掛けられることが多かったが、昨年『きものDE長浜』の時に着物を着て出掛けたら『華やかだね』『きれいね』と声を掛けてもらえた。女性としてそれがすごくうれしかった。一緒に着物を着て出かけた車いすユーザーの女性もキリッとしたとても良い表情をしていて、これは変身力のある着物にしかない力だと感じた。通常着物は立って着るものだが、ここにある着物は座ったままで簡単に着れるので、ぜひ見てほしい、着てほしい、感じてほしい」と呼び掛ける。

## 「全肢連事業 第1回あ〜と展覧会」

9月15日(水)をもって募集を締め切らせていただきました。  
500点を超える応募作品に事務局一同、嬉しい悲鳴をあげております。  
ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。  
表彰につきましては12月頃を予定しており、ホームページ、機関誌上で発表いたします。

## 事務局より

### オンラインコンサートのご案内

【日程】令和3年11月21日(日) 17:30~19:00まで  
参加の申し込みは全肢連ホームページをご覧ください。  
<https://www.zenshiren.or.jp/publics/index/245/>



### 全肢連情報の発送について

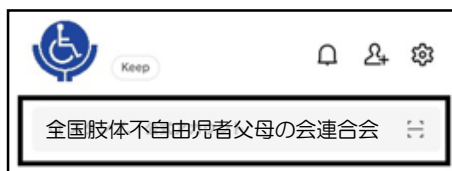
全肢連では9月1日より地域父母の会あてに直接「全肢連情報」の配布を開始しました。  
メール 月2回(1日、15日に配信)  
郵送 月1回(1日に前月の15日号と共に発送)  
※都道府県肢連より今まで通り配布される地域もあります。

全肢連からの郵送をメール配信に変更を希望する方は全肢連事務局にご一報ください。

連絡方法 FAX 03-3971-6079 / E-mail [zenshiren@zenshiren.or.jp](mailto:zenshiren@zenshiren.or.jp)  
全肢連ホームページ <https://www.zenshiren.or.jp/publics/index/27/>

### 全肢連 LINE 公式アカウントのお知らせ

LINEで全肢連の公式アカウントを作りました。全肢連情報等の最新の情報をお届けします。  
QRコードもしくはLINEの検索画面で登録してください。



## 10月の予定

7日(木)	全国特別支援教育推進連盟理事会	リモート
15日(金)	日本肢体不自由児協会審査会	日本肢体不自由児協会
20日(水)	わ142号発行	

## ふわりいランドセル 株式会社協和

障害児用オーダーメイドUランドセルのNEWデザインができました。  
是非ご覧ください。

[https://fuwarii.com/user\\_data/u\\_order](https://fuwarii.com/user_data/u_order)

